

―ハルシナイから上流の地名⑬―

掲載地図の……線①のアイヌの交通路を活用した「上川仮新道」は、明治十九年に出張命令を受けた北海道庁属・高畑利宜が、樺戸集治監典獄・安村治孝と共に神居古潭・忠別太(現・旭川市忠和)間を踏査、道路ルート概略を五月七日に決定した。その結果、上川仮新道の空知太(現・滝川市)と忠別太間十二里半の道路開削は、樺戸集治監の囚徒五十人によって、五月十九日空知太から開始。六月八日に神居古潭まで進み、オシネナイまでが同二十日、忠別太まで竣工したのは六月二十四日であった。

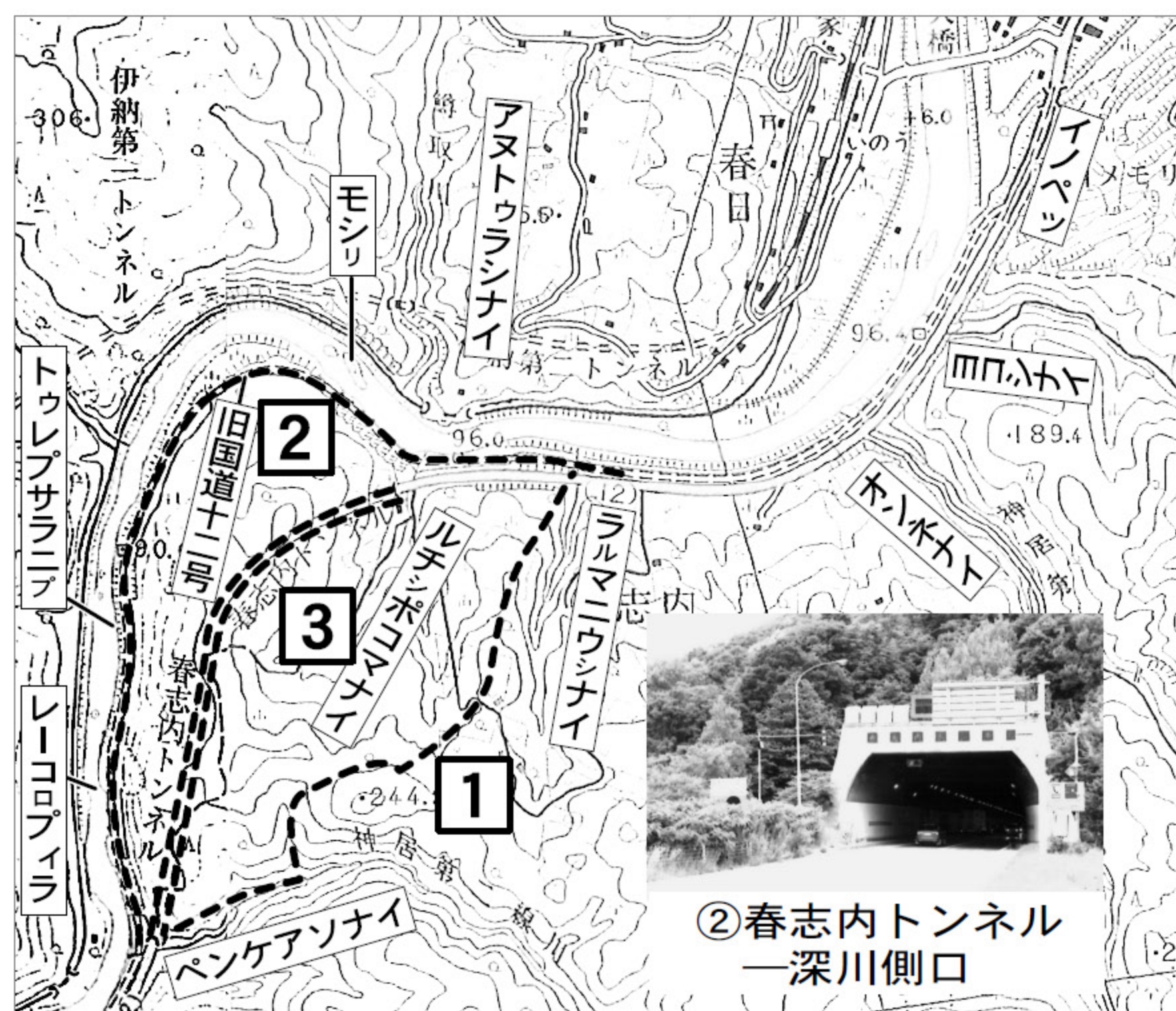
当連載⑨で紹介した、明治二十一年九月二十二日に、北海道庁第二代長官・永山武四郎一行十五名は馬行でこのアソナイ山道を通ったが、帰途は忠別太から丸木舟六隻に分乗して、春志内まで下り、馬は陸路春志内に回した。このように、上川仮新道の頃は、丸木舟も併用したこともあったのである。

上川仮新道の改修工事は、内大部から忠別太間の四里十八町が、明治二十二年九月に竣工した。刈分道の上川仮新道から「上川道路」となった。

……線②の石狩川左岸沿いの道路が、上川道路で、旧国道十二号である。このルートは、先にあげた安村治孝の発案であった(河野常吉編「上川開拓功労者―高畑利宜談話」)。改修された上川道路の仕様は、道幅三間(五・四六呎)、その左右に幅三呎(九・九呎)、

道路は、草木・笹等を九尺(二・七二呎)幅に伐除し、道幅は六尺(一・八一呎)とする刈分道の仮新道であった。各川沢は、六尺(一・八一呎)の土橋を架した。

深さ三呎(六・十六呎)の下水溝を掘り、路面には砂利を三寸(九・〇九呎)ほど敷いた。この改修工事も、樺戸



②春志内トンネル―深川側口

に開通した。
写真①は、旭川側のトンネル入口で、旧国道路面より十五呎高い位置にあり、旧国道の急カーブ三・三呎の難所を、緩やかなカーブで二・四呎に短縮した。入口手前の橋は、「神光橋」である。ここから、**掲載地図**のモシリ(Mosiri)川中の島(中州)の状態が観察できる。

なお、旧国道十二号は、現在はサイクリングロードとして活用されている。石狩川右岸の鉄道線路を利用した旭川サイクリングロードが、落石のため閉鎖されている現状では、貴重なサイクリングロードであり、アイヌ語地名調査では欠かせない重要な調査道路となっている。しかし、鉄路からの神居古潭の景観の素晴らしさを知る者にとっては、その差は歴然としていて、寂しい限りである。

さて、**掲載地図**の……線②は、上川

道路から、国道十二号と名称変更をし、道路改修もされたが、国道十二号の中でも、「春志内の大曲」と言われた交通の難所の上、昭和五十六年の台風の際には、石狩川の増水による国道の冠水、また、崖崩れ等の災害が起きた。そのため旭川開発建設部が、防災対策として、……線③の「春志内トンネル」

①春志内トンネル―旭川側口



(二八〇五メートル)の建設に昭和五十九年に着工した。しかし、神居古潭變成岩帯で工事は難航、平成三年十月三日

再び石狩川筋のアイヌ語地名を見たい。(アイヌ語地名研究会幹事)

断章 旭川のアイヌ語地名研究

109

高橋 基